

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2007～2010

課題番号：19320050

研究課題名(和文) イランの祭祀・信仰に関するデータベースの構築とペルシア文学論への発展的応用研究

研究課題名(英文) Construction of Database on Iranian Worship and Belief and Applied Research of Theories of Persian Literature in Expanded Form

研究代表者

森 茂男(MORI SHIGEO)

大阪大学・大学院言語文化研究科・教授

研究者番号：40273734

## 研究成果の概要(和文):

本研究は、現代のイラン人が保持する伝統的な祭祀・信仰に関する資料をデータベース化することにより、これまで断片的にしか提示されてこなかった当分野の研究資料を一元化し、研究の効率を格段に向上させることを目指したものである。その結果、イラン国内でのイスラム以前の遺跡をはじめとする資料収集、データベース構築に係る作業、文学論への応用研究に係る研究活動を実施した。

## 研究成果の概要(英文):

The aim of this research project is to integrate materials of the field of this research which have been extant in fragments, by way of construction of database on Iranian worship and belief. As a result, research work such as collection of pictures on ruins of pre-Islamic era, construction of database and applied research of theories of Persian literature has been carried out.

## 交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	4,800,000	1,440,000	6,240,000
2008年度	3,100,000	930,000	4,030,000
2009年度	3,100,000	930,000	4,030,000
2010年度	3,300,000	990,000	4,290,000
年度			
総計	14,300,000	4,290,000	18,590,000

研究分野：イラン語歴史言語学

科研費の分科・細目：文学・各国文学・文学論

キーワード：外国語(中・英・仏・独除く)、外国文学(中・英・仏・独除く)、文学論、民俗学、イラン

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 国内外の関連する研究における本研究の位置づけ

本研究は、イラン言語史を専門とする研究代表者(森茂男)による古典ペルシア文学に見える近期ペルシア語の語源研究の一環という位置づけで行われたものである。古典文学研究においては、用語や文法などだけでな

く、当該地域の特殊な思考方法や習慣といった文化的背景を熟知する必要がある。イスラム教シーア派を信仰するイラン人によるペルシア古典文学の研究では特に祭祀と信仰の問題が文献理解の重要な鍵となる。そこで、現代イランを対象にフィールド調査を行うことにより、古典文学が書かれた時代の風習を直接記録することはできないまでも、可能な限りの体系的な資料をデータベースの形

式で作成することができると考えた。さらに本研究では、ペルシア現代文学論、イラン口承文芸論を専門とする研究者と連携することにより、イラン地域研究全体に寄与する基盤的研究になると考えた。

折しも、9.11 事件(2001 年)以降、中東の一部勢力に過ぎなかったシーア派イスラム世界が世界情勢の中心の一つとなる中、近年における中東情勢を巡ってはイスラム教シーア派の人々についての理解は人文科学だけでなく、政治学や経済学等の社会科学の分野でも急務であった。可能な限り早期において、イスラム教シーア派住民の伝統的思考方法を明確な資料により明らかにすることは、本研究および本研究チームの社会的責務であると考えた。

なお、本研究は、「イランの祭祀・信仰に関するデータベースの構築とペルシア文学論への応用研究」(科学研究費補助金、基盤研究 B、課題番号：16320044)の「研究計画最終年度前年度の応募」として応募され、継続して実施する研究という位置づけで行われた。

## (2) 着想に至った経緯

イランはシーア派イスラムを国教としているが、現在のシーア派イスラム文化は、ゾロアスター教、モンゴル文化、ギリシャ文化、アラビア文化といった諸文化・宗教を重層的に取り込んで発展してきたものである。しかし、その重層性の痕跡は、イランの近代化とともに姿を消しつつあり、まさに消滅の危機に瀕している。同時に、現在のイランを巡っては、長期的には諸外国を巻き込んだ不安定な政治情勢も予測されており、場合によっては、無形・有形の文化財自体が近い将来において破壊される可能性もある。このため、現在においてイラン・シーア派イスラム文化の調査、保存、分析といった本格的な研究活動の実施が急務であると言える。こういった経緯により、我が国の研究者が我が国独自の手法で当該地域の文化研究を行うことの重要性の認識することになり、本研究を実施する着想に至った。

現地調査に関しては、中東をとりまく厳しい国際情勢により、米国をはじめとする西欧諸国の研究者がイランのイスラム教シーア派住民を対象とした調査を自由に行うことが困難である。しかし、近年における日本とイランの外交関係は比較的良好であり、日本の研究者による現地調査に関しては大きな障害はない。実際、本研究チームは平成 16 年度以降、イランの研究機関と連携した作業を積極的に行ってきた。こういったイラン研究を巡る状況の中、本研究を着実に実行することにより、日本が当該分野の研究において拠点的な立場になることが期待さ

れた。

## (3) 既存研究の発展継承

本研究課題は、「イランの祭祀・信仰に関するデータベースの構築とペルシア文学論への応用研究」(科学研究費補助金、基盤研究 B、課題番号：16320044)を基盤とし、さらに継承発展させるという明確な位置づけがある。本研究チームは、前掲の研究課題の着想と研究成果を基礎として「シーア派イスラム文化理解に対する日本からの提言」(日本学術振興会アジア・アフリカ学術基盤形成事業、平成 17～19 年度)へと発展させてきた実績を持ち、研究を効果的に発展させる発想と経験を持つ。研究成果自体を発展させるだけでなく、若手研究者の効果的育成、社会へ向けた研究成果の積極的還元、イラン研究機関との日本主導の継続的な連携とその強化を常に念頭に置きつつ、総合的に既存研究を発展継承させることとした。

## 2. 研究の目的

### (1) 研究期間を通じた目標

イランのイスラム教シーア派住民に調査対象を絞り、祭祀・信仰に関するデータベースを作成し、且つ、文学的応用研究を行うことを目的とする。

このために、イラン国内でのフィールドワークにより、イスラム教シーア派の住民によって伝承される祭祀・信仰に関する資料、古代ペルシア語を含む碑文に関する資料、古代イラン文化を視覚的に伝える美術史学・考古学的資料および、民話等の民俗資料の現地調査及び資料収集を行う。

さらに、イランで収集した資料についてデータベース化を行う。コーパス化した言語資料、音声資料、画像資料、映像資料を全て共通の形式で扱えるように Unicode による XML 形式で整理し、一元的に管理する。

その上で、研究代表者および連携研究者の専門に応じて、文学論からの研究を行う。

### (2) 特色、独創性、意義

#### 関連する学問分野への寄与

本研究は、イランのイスラム教・シーア派住民が保持する伝統的な祭祀・信仰をデータベース化することにより、これまで断片的にしか提示されてこなかった当分野の研究資料を一元化し、研究の効率を格段に向上させることを目指す。作成されるデータベースは、歴史言語学的・文化史的研究に留まらず、ペルシア現代文学論、イラン口承文芸論への応用が可能であり、イランの地域研究全体に寄与する基盤的研究成果であると考えられる。

応用研究におけるデータベースの実用化  
また、本研究は、現地調査に基づくファク

ト(一次資料)を入力対象とする。入力対象とする資料は、フィールドワークに基づく資料に特化する。研究対象地域の特殊性を考慮し、現地調査資料を重視する点が本研究の特色の一つである。データベースは既に応用研究において実用化段階にあるため、具体的成果を提示することにより、拡充されるデータベースの有用性を実証できる点も特色である。

#### 研究方法の基準の創出

本研究によって作成されるデータベースは、イランのシーア派住民の伝統的思考方法に関する資料としては、インターネット上で利用でき、且つ、体系的なものとなり、その位置づけは極めてユニークなものであると考える。また、データベースの形式としてUnicodeを用いたXML形式を採用するため、主要OS間でデータの互換性ができるなど、格段に汎用性が増したものである。当研究分野においては、将来においても、本研究で構築するデータベースが基礎的な資料の一つとなり、基準的なものになると期待する。

### 3. 研究の方法

全研究期間を通して、イラン等におけるフィールドワークによる調査、基幹的作業となる資料に関するデータベース構築に係る作業、これに加えて応用研究を行った。

具体的には主に次の(1)から(3)の方法で研究活動を実施した。(2)の作業においては、ペルシア語の知識を有する研究補助者を活用して、データの入力・整理・加工等の作業を行った。

#### (1) イラン等における資料収集

研究代表者、連携研究者および研究協力者から構成されるイラン現地調査チームを組織し、イラン・イスラム共和国内等で祭祀・信仰に関する体系的な調査等を行った。

(2) データベース作成：本研究等によりイランで収集し、且つ、本研究の目的に合致する基幹的な資料を選定し、「イラン伝統文化データベース」の拡充の作業を進めた。

(3) 文学論への応用研究：本研究活動により得られた資料や知見を用いて、研究代表者を中心としてペルシア語史的視点からの考察などの応用研究を行った。

### 4. 研究成果

本研究の研究成果を3項目に分けて説明する。

#### (1) イラン国内等での資料収集

各年度、研究代表者等がイランへ渡航して資料収集を行った。特に、イスラム以前の遺

跡資料の収集に係る活動を重点的に行ってきた。

イラン文化圏は歴史的には周辺地域も含む場合があるため、イラン国内の調査に加えて、イランに隣接し、且つイラン祭祀信仰研究、とりわけヘレノ・イラニズムにとって重要な資料が残るトルコ共和国における調査を実施した。また、イラン国内においてイスラム以前の古代遺跡を中心とする画像資料の収集およびソフレと呼ばれる主として女性が行う儀礼的民俗の収集を行った。

#### (2) データベース構築

下記の5の〔その他〕で示すサイト上で、「イラン伝統文化データベース」を公開している。このデータベースは、1-(1)で述べた「イランの祭祀・信仰に関するデータベースの構築とペルシア文学論への応用研究」(科学研究費補助金、基盤研究B、課題番号：16320044)において構築してきたデータベースの発展版である。とりわけ、「イラン伝統文化データベース」のなかでも中心的な内容となる「古代イラン文化の遺産データベース」と題したデータベースでは前イスラム期イランの屋外遺跡のほぼ9割に及ぶ写真データを細部にわたって豊富に収録した。これには、イラン文化の伝統性を示すのに有用なイスラム期の遺跡も数か所の詳細なデータが収められている。古期ペルシア語・パルティア語・中期ペルシア語の国内碑文については、所在地が確認できなかった数点を除き、そのほぼすべてを収録した。この種の試みは、イラン国内でも従来行われることはなかった事業であり、イラン文化研究にとって重要な基礎資料を提供できると考えている。また、このデータベースは研究者だけでなく、一般社会人にも利用しやすいように設計されており、研究の社会貢献という観点からみても重要な意義をもつと考える。

#### (3) 文学論への応用研究

ペルシア古典文学における語源研究の一環で行うペルシア語語源辞典の拡充については、当初の予定からさらに発展させ、一語一語に付き詳細な分析と考察を加えることになった。具体的には、次の諸項目について調査し、分析した：ペルシア語語義、古辞書解説、語源、近期イラン諸語、中期イラン諸語、古期イラン諸語、古期インド語。近期イラン諸語以下はそれぞれ対応する下位項目を持ち、個別に語源項目との対応関係を記述した。語源については従来説を踏襲するものが多いが、創見を陳述できるものは詳細に自説を論じた。その結果、効率的に作業を進行できなかった反省はあるもののペルシア語語源研究にとって有益なデータを提供できると考える。

このほか、ペルシア語史、ソフレ儀礼、および、口承文芸としての民間信仰についての研究も一定の成果があった。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計5件)

森茂男, bolandの意味拡張について, イラン研究, 第7号, 264-282, 大阪大学 2011, 査読有

竹原新, 現代イランの積極的呪術, イラン研究, 第6号, 128-159, 大阪大学 2010, 査読有

森茂男, ペルシア語 shudan と raftan について, イラン研究, 第5号, 343-360, 大阪大学 2009, 査読有

羽田美希, ファーテム・ザフラーのソフレ: 調査ノート, イラン研究, 第5号, 234-342, 大阪大学 2009, 査読有

森茂男, ロバについて, イラン研究, 第4号, 205-214, 2008, 査読有

[その他]

ホームページ

[http://persian.minoh.osaka-u.ac.jp/~worksite/iran\\_tc\\_db/public/top.htm](http://persian.minoh.osaka-u.ac.jp/~worksite/iran_tc_db/public/top.htm)

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

森 茂男 (MORI SHIGEO)

大阪大学・大学院言語文化研究科・教授

研究者番号: 40273734

##### (2) 研究分担者

レザイーバグビーディー、ハサン  
(REZA IBAGHBIDI HASSAN)

大阪大学・世界言語研究センター・外国人招へい教員

研究者番号: 70457026

(H19年まで研究分担者として参画)

##### (3) 連携研究者

藤元 優子 (FUJIMOTO YUKO)

大阪大学・世界言語研究センター・教授

研究者番号: 40152590

(H19年まで研究分担者、H20年から連携研究者として参画)

竹原 新 (TAKEHARA SHIN)

大阪大学・世界言語研究センター・准教授

研究者番号: 20324874

(H19年まで研究分担者、H20年から連携研究者として参画)

アーベディーシャール、カームヤール  
(ABEDISHAL KAMYAR)

大阪大学・世界言語研究センター・特任准教授(常勤)

研究者番号: 30573018

(H21年から連携研究者として参画)